

八栗寺

八栗寺は、829 年に僧侶の空海（774-835）が創建したとされる真言宗の寺院である。空海ゆかりの 88 の寺院を巡る「四国遍路」の 85 番札所として知られている。五剣山のほぼ中腹に位置し、徒歩または牟礼町から赤と白の八栗ケーブルラインのケーブルカーで行くことができる。

五剣山は何世紀にもわたって宗教的な行為と結びついており、八栗寺の建物にもそれが反映されている。本堂や空海を祀った大師堂のほか、香川県の伝説的な三天狗の一人を祀った中将坊堂がある。

寺の名前は、空海が境内に埋めた 8 つの焼き栗に由来する。空海がより深い仏教の教えを求めて中国へ旅する前に占いとして植えた 8 つの栗が芽を出し、木になったことから「八栗」と呼ばれるようになった。今でも地元では五剣山を「八栗山」と呼ぶことがある。